「みんなで助かるために」

家串小学校　六年　宮下　魁伸

この話は、地震後逃げるのが遅かったため、六才の長女を津波で亡くした父親の話だった。僕はこの夏、視察のため東北に行った。東北の人たちの中には何とか津波から逃れた人もいたと聞いた。しかし、この話のように行動を起こすのが遅れて亡くなった方も多かったと思う。僕の住む家串も東北と同じ様に、海が目の前にある地域だ。僕は、地域のみんなで助かりたいと強く思う。そのために、僕が学んできたことは次のことだ。まず、家族で防災会議を開き避難場所や家族の約束事を決める。その上で、「一人でも近所の人に声をかけながら一番に逃げる。」「遠くではなく高い所を目指して避難する。」ということだ。その避難場所で家族と合流できるので、とにかく何も考えずに避難することが大切だと聞いた。この話で亡くなった人は子どもだが、

20 × 20

子どもでも自分で判断して逃げることが大切だ。僕は自分ができることを精一杯やって、みんなで助かりたい。

20 × 20